

じん しん
壬申の乱

兄の天智天皇から「次期天皇に」とのお話がありました。私は僧になって吉野に入りましたが、皇位を継ぐのは私しかいないと思っていました。天智天皇の子・大友皇子を次に守る必要があったのです。これまで天智天皇を支え進めてきた国の政治改革は道半ばとなりました。...

そして、天智天皇が亡くなったあと、身に危険が迫っていることを知った私は大友皇子との戦いを決意。次期天皇として、国の法律や制度を整え外国と対等につきあえる国をつくるのが私の使命だと考えたのです。

おおあまのみこ
大海人皇子

『日本書紀』によるプロフィール

- ・のちの天武天皇
- ・生まれながらに容姿端麗、武術に優れていた
- ・『日本書紀』と『古事記』の編纂を命じた
- ・律令制の礎を築いた

大海人皇子の強さを知る人は、吉野に向かう大海人皇子を虎に見立て「虎に翼をつけて放つようなものだ」と言ったと記されているよ。



「白村江の戦い」の後、都は近江へ。中大兄皇子は天智天皇として即位し絶大な権力を持ちました。しかし、その後、病に倒れてしまい皇位継承者として有力だった弟・大海人皇子と子・大友皇子の間で跡継ぎ争いが起こりました。これが古代最大の内乱と言われる「壬申の乱」です。

大海人皇子は容姿端麗で、武術にも優れていたため、天智天皇も大海人皇子に自分の跡を継ぐように伝えていました。しかし、大友皇子を次の天皇にしようという動きがあることを知った大海人皇子は、天智天皇の言葉を疑い、病気を理由に辞退します。そして、皇位を引き継ぐ意思がないことを示すため、出家して吉野へと向かいました。天智天皇の崩御後、政権を手にした大友皇子は天智天皇の陵（お墓）を造ると言いながら、農民に武器を持たせ、吉野への道のあちこちに監視を置きました。

この動きを知った大海人皇子は立ち向かうことを決意します。吉野を出て地方の豪族を味方につけながら兵力を強化し、各地で大友皇子との戦いを繰り広げました。戦いは現在の岐阜県にまで及びましたが、近江の瀬田川での決戦を制して大海人皇子が勝利し、飛鳥の都（飛鳥浄御原宮）で天武天皇として即位します。

「記紀・万葉れきしめりえコンテスト」
作品募集中!

「記紀・万葉」ゆかりのモチーフを自由な発想で色めりして、素敵なめりえ作品を作ってみませんか? 優秀作品には素敵なプレゼントも! 応募は1/15まで。詳しくは下記へ。

kikimanyo.info/nurie/

古代食グルメプロジェクト
「古都恋都ぐるめ」活動中!

古代の食材を使った“楽しくて美味しい”現代風レシピを奈良女子大学“奈良の食プロジェクト”と共同で開発中! 試作のようすや完成したレシピなどを特設WEBサイトで随時、公開しています!

こ と こ と
古都恋都ぐるめ

kikimanyo.info/gourmet/